

令和7年度 学校経営方針

蓮田南中学校の伝統や校風を継承し、発展させ創造していく。そして今を生きる目の前の生徒を大事にし、子どもが学びたくなる、教職員が勤めたくなる愛され信頼される学校づくりをめざします。

1 学校教育目標

「学・恕・夢」

合言葉 ～レッツチャレンジ！～

学校教育目標は、学校の教育活動の根幹であり、すべての教育活動の目標に通じるものです。

「学」：新しい時代に求められる資質・能力の育成

＊一人一人の学力を伸ばす ＊授業改善（何のために学ぶのか）

「恕」：思いやりをもって許す心の育成

＊他者の痛みや苦しみ、喜びを自分のことのように感じるとることができる人。すなわち、相手に対してだけでなく、自分を成長させるもの。

「夢」：健やかな心身の育成 キャリア教育の推進

＊主体的に社会参画できる力を育てる

2 めざす学校像

力を伸ばし 可能性を開花させる学校

○目標や夢に挑戦し続ける学校 [未来のために 常に挑戦し続ける]

○多様な価値を認め、思いやりと活力のある学校

[人を大事にし 一生懸命に取り組む]

○ともに学び合い、高め合う学校 [仲間と一緒に活動から学ぶ]

3 めざす生徒像

学びを活かし 夢を語り 生き抜く生徒

○主体的に学び 確かな学力、思いやり、体力を身に付ける生徒

○規範意識を持ち、自らの考え・行動がとれる生徒

○志を高く掲げ、夢の実現を目指し、生き抜くことができる生徒

4 めざす教師像

学び続け ひと手間かける 誠意ある教師

- 心身ともに健康で 明るくさわやかな教師
- 生徒のよさを引き出し 伸ばしていく教師
- 確かな力量と 向上心を持つ教師
- 深い生徒理解に基づき 個に応じた適切な対応をする教師
- 教育公務員としての品位と使命感を持ち 学び続ける教師

5 学校経営の基本理念

- 学校は、教師・生徒ともに楽しく 学び合い、高め合う場である
- 学校は 未来を創る 子どものためにある
- 学校は 地域立であり 信頼から成り立つところである

6 学校経営方針

- 学校は、保護者にとって安心して生徒を託す所でなければならない。今の時代を生きる子どものために、指導力の向上に努め、信頼関係の上に愛情を持って教育にあたる。
- 教育活動を行う上で、「意欲を喚起する活動内容」すなわち「わくわく」する活動を作り出していく。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">* 「ともに活動する仲間がいる」* 「自己選択、自己決定の場があること」* 「他者から認められたり、振り返ったりする機会があり、成長を実感でき、次のステップへつなげる」 |
|--|

- (1) すべての教職員が学校運営参画意識を持ち、学校・家庭・地域が一体となり、愛される学校づくりを進める。
- (2) 生徒が心の潤いと所属意識を実感でき、安心・安全で美しい言葉を交わす学校を生徒・教師がともに創る。
- (3) 主体的・対話的で深い学びを一層推進し、探究活動の充実を通して、生徒が生き抜く力を身に付け、豊かな人生を切り拓いていけるよう、社会に開かれた教育課程の編成・実施・評価・改善に努める。
- (4) 教育は信頼関係の上に成り立つものである。生徒への愛情を忘れることなく、相手の話は傾聴し、品位と使命感を忘れることなく、教育公務員としての人権感覚や言葉遣い、指導方法の工夫・改善を進める。

1 本年度の重点

「確かな学力の向上と定着」

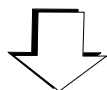
(1) ねらいのわかる授業 ～誰一人取り残さない授業の展開～

- ①課題設定（つかむ・見通す・ゴール）
- ②個人で考える
- ③学び合い・話し合い
- ④まとめ・振り返り・次時の予告

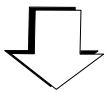
※「まとめ」は教師によるもの 「振り返り」は生徒が行うが、本時の「ねらいについて」自分はどうであったかを、自分の言葉で振り返る。「次時の予告」を省略しがちゆえ十分に気をつける。

(2) 非認知能力を伸ばす取組

- ①アクティブラーニングの視点からの授業改善
- ②目標の達成や他者との協働、自分の感情をコントロールする力
- ③基礎的・基本的な知識、技能を確実に習得させる



学ぶ土台がしっかりできる



状況の変化に対応ができ、生き抜く力が高まる

(3) タブレットの効果的な活用

学習場面等に応じて、ICTを適切に組み合わせて効果的な指導を行う。また授業以外の場面でも積極的に活用する。生徒の可能性を引き出し、個別最適な学びと協働的な学びを工夫する。

「生徒理解を深める教育相談の充実」

～「傾聴し、共感、認め、導く」姿勢から～

(1) 徹底した生徒理解

＊生徒一人一人の環境と行動の背景をきちんと理解した上で対応する。

- ①生徒からのサインを見逃さない（小さなこと、変容を大事にする）

生徒への対応をした際に「もうひと手間」かけることで、よりよい結果に結びつく

＊生徒実態調査等による生徒の実態把握や、早期対応、初期対応をはじめとする迅速な対応と十分な共通理解を徹底する。（情報の共有を全職員で）

- ②いじめや暴力、差別を「しない、させない、許さない」などの人権意識を高揚する。

- ③相談室、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等関係機関との連携。
- ④登校しぶりや不登校生徒への早期対応を行い、「あせらず じっくり」取り組むことに留意する。そして所属意識持たせ居場所づくりに努める。
- ⑤性の多様性を尊重する研修の推進

(2) 特別支援教育の充実

- ①ユニバーサルデザインの授業づくりの推進
- ②特別支援学級に在籍する生徒、特別な支援を要する生徒への適切な指導の充実
- ③就学支援の充実

「自主的で自治的な力を育てる学年・学級活動」

*意図的に「認め、ほめる」機会を増やしていく。

生徒が活動の中で、成長する姿を見取り、全職員で認めることを意図的に作り出していく。生徒の目標に合致しているとき、学校の目指す姿に迫る様子の時には、本人に伝えるだけではなく、集団全体に示していく。

- (1) 生徒一人一人が認められ、よさや可能性が発揮できる居場所のある学級づくりの推進。
- (2) 自分たちの課題を自分たちで「話し合い」「解決策を決定」「実践」し解決する。
- (3) 個々の学校生活への適応を図るとともに、よりよい人間関係の形成を実現する。

「未来を切り拓く力を身につけた生徒の育成」

- (1) 道徳の授業を中心に相互参観や相互授業を積極的に実践し、他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。
- (2) キャリア形成と将来の生き方を設計するキャリア教育の積極的な推進。
- (3) 自らの健康を適切に管理し、安全意識や危険を予測し回避する能力を身につける。
あわせて自他の生命の尊さを自覚させる場と機会を体験的に学ばせる。
- (4) 読書好きな生徒を育てる。

「心の潤いと和む環境づくりの推進」

- (1) 「美しさを求める心」を持ち、きれいな学校づくりの推進。
- (2) 季節を感じ、生徒の活動が生きる、連携、連動している掲示教育の推進。
- (3) 「言葉が美しい」学校づくりの推進。

場に応じたあいさつと、思いやりのある美しい言葉遣いの実践

※生徒を呼ぶ際に呼び捨ては絶対にしない。「～さん」を徹底する。